

時の視点

「J—BRAND」実現に向けて

全原連 経営革新委員会 委員長 瀧本義継



全国製紙原料商工組合連合会（全原連）では、平成21年9月の役員会で「日本古紙品質認定制度（J—BRAND）」を、平成22年度中に運用開始することを決定いたしました。

J—BRAND 制定の目的は「日本の古紙品質向上（品質均一化）を図り、良質原料古紙の供給による国内製紙会社の古紙利用の促進及び、古紙国際市場での日本古紙の競争力の向上並びに、本制度運用による組合員の競争力の強化」を目的として実施するものです。

「J—BRAND 認定制定」を担保する制度として、「古紙商品化適格事業所認定制度」と「古紙リサイクルアドバイザー認定制度」があります。

J—BRAND 構想は平成17年の古紙商品化適格事業所認定及び古紙リサイクルアドバイザー認定制度の発案時から、当該2制度のゴールとして「日本古紙品質認証（又は認定）制度」に繋げ、三位一体の制度として考えられていました。一方、(財)古紙再生促進センターでもセンター事業の柱である「古紙品質向上事業」の一環として、平成18年から「日本古紙品質認証制度」を2年間にわたり、第三者も参加した「古紙品質向上対策検討委員会」で研究し、平成20年3月に「古紙品質

管理マニュアル Ver.1.0」としてまとめてまいりました。

これらの経緯を含め全原連では品質認証制度は現状では困難と判断し、全原連品質認定制度を立ち上げることにいたしました。一方、(財)古紙再生促進センターは全原連の品質認定制度運用を検証しながら、再度認証制度についても研究を進める予定にしています。

「J—BRAND」実現のため全原連は「J—BRAND 制定委員会」を本年7月に設立し、平成22年度内運用を目指して動き始めたのが今日の進捗状況です。

古紙は国内においても銘柄別の品質仕様が均一化されていず、とりあえず仕様が比較的均一化されている「段ボール古紙」と「新聞古紙」の2銘柄からスタートすることにしました。品質認定条件として、(財)古紙再生促進センターの品質規格に準じたナショナルブランド（国内統一品質仕様）化を図り、マーケットクレーム対策等にも運用対応してまいります。

「日本古紙品質認定（J—BRAND）制度規則」及びそれをベースにした「日本古紙品質認定制度運用細則」で「J—BRAND 認定制度」運用を行ってまいります。古紙を品質認定するという発想は10年前には考えられないことでした。古紙を利用する製紙メーカーも、古紙は品質は多様化し仕様の幅も広がることを前提に設備投資をしています。しかし、古紙仕様が均一化されることにより、歩留まりの向上や廃棄物の減少から環境負荷も軽減されます。

日本の経済は「量の経済」から「質の経済」へ、「物の経済」から「時間の経済」へと急速に転換しています。その結果、日本の製紙産業は量（生産量2560万ト、前年比84%）において20年前に逆戻りし、紙、板紙の消費量も（2880万ト、前年比91%）に減少すると予想されます。全ての業

界が経営の質を変え腹八分経営に転換を迫られています。古紙業界も例外ではありません。全原連は絶妙のタイミングで「質の経済」への転換を目指し、三位一体の制度を立ち上げました。「品質」のみならず「業の質」及び「環境貢献」へも役立つことを信じて、「J-BRAND 認定制度」実現に向けて全員で取組んでまいりましょう。

静岡県紙業協会家庭紙部会 との懇談会

[平成21年10月29日(月)午後2時00分～]
於) 富士工業技術支援センター

出席者：静岡県紙業協会家庭紙部会 24名

(内、家庭紙メーカー 19名)

静岡県製紙原料商業組合 9名

東京都製紙原料協同組合 14名

三団体代表挨拶

イデンギョー(株)井出会長

[静岡県紙業協会家庭紙部会]

トイレットパーパーの生産状況は、年間約100万トンで大手30%、中小で70%である。家庭紙メーカーでは年間再生古紙を約100万トン使用している。トイレットペーパーとティシュペーパーの製品価格が値下がりしている。安くないとなかなか売れないので供給側から要望が通らないのが現状である。古紙の発生が悪いと聞いているので、本日は情報交換をする中で確認したい。

近藤理事長 [東京都製紙原料協同組合]

昨年のリーマンショックから1年が経過してパニック的な状況は収まった。古紙業者は発生が少なく原料価格も低いまま仕事をしている。先月、中国の古紙回収システムの強化を図るため中国製

紙団体・企業・古紙回収業者等が、日本に研修に来て大手メーカー、古紙ヤードを見学した。中国は古紙回収率が39%で、1%を上げるのに分母が大きく大変である。将来的には50%に上げたいとの事である。日本のような古紙業者や製紙メーカー間との会合がないため、日本を手本として情報収集の場を作っていきたいと話していた。私どもも本日は情報交換を通じて今後に役立てていきたい。

佐野理事長 [静岡県製紙原料商業組合]

昨年のリーマンショックから1年が経ちました。需要、古紙の発生が相当に悪いようです。情報交換を密にして対応していきたい。

古紙全般の市況について

赤染直納部長 [東京都製紙原料協同組合]

国内の洋紙メーカーはトンネルを抜けない状況である。DIP設置後、他のマシーンを止めている。注文も落ちたままである。洋紙メーカーは厳しい状況が続くようである。板紙メーカーはシルバークラウド後、若干、良くなってきた。販売量も伸びてきたようである。製品在庫があり古紙の注文量の変化はない。

輸出は、若干、最安値を回復しつつある。8月9月は調整、国慶節時期は注文を抑える状態であったが終了後、アメリカ物が上がり、日本の古紙も、若干、回復。中国は内需が回復し内需向けは生産好調である。日本国内は、まだまだ厳しい状況である。輸出は目に見えて回復していないが中国の内需がいい分救われている。発生はすべての物が昨年対比で15%減となっている。古紙問屋の在庫はランニングストック状態である。例年だと発生増となる時期だが、カレンダー等の印刷

もすでに終わり発生には見当がつかない状況である。

家庭紙原料について

小林色上委員長 [東京都製紙原料協同組合]

洋紙メーカーは減産により発注量の増加はない状況。家庭紙向け古紙とDIP向けの古紙の両方が減少している。集荷された古紙がそのまま家庭紙に流れている。オフィス古紙は発生が15%～20%落ちており在庫は低位で推移している状況である。

集荷関係より

宮崎集荷部長 [東京都製紙原料協同組合]

製本、印刷は構造的不況である。発生は20%～30%減っている。学産物も減っている。印刷物では講習会、資格試験用の資料が増えている。印刷業界では年内に廃業するかもしれない会社が増えてきている。集荷としては、これ以上、維持できない状況にある。家庭紙メーカーから良い回答が頂ければと願っている。

静岡の状況について

[静岡県製紙原料商業組合]

発生が落ちている。家庭紙の使用量が減っているのか。メーカーによりバラつきがあるようである。古紙の回復を要望したい。

家庭紙メーカーからの現状と意見

[静岡県紙業協会家庭紙部会]

古紙の使用分に関しては潤沢に入っている。メーカーによるが倉庫は満杯状態であるところが多い。発生が少ない割には積載量が多いので積載量を守って欲しい。トイレットペーパーの売れ行

きが悪いので減産をして生産調整をしている。発生は悪いが生産面と売れ行きが悪い事でバランスしている。

品質に差がでている(込貢、ケントにPPが混じっている)品質の良いものを要望する。ミックス等の要望原料が入らない場合がある。

原料業者の現状 [東京都製紙原料協同組合]

[静岡県製紙原料商業組合]

夏から発生が悪く落ち込みが激しい。オフィスから出てくる量が減少している。全体に在庫が減っていて、今はランニングストック状態である。品質が落ちないように努力している。発生は少ないが注文も少ないのでバランスしている。

質疑応答 G：原料業者 M：家庭紙メーカー

G—Q： 製品価格について

M—A： 販売側からトイレットロールの値下げ要求が多い。燃料費などの値上がりも懸念される。大手のティシュペーパーなどは価格が安いものが多い。中小メーカーは厳しい状況である。

G—Q： 輸入紙が入ってきていると言う話を聞くが、影響はどうか。

M—A： 輸入品はティシュペーパーが多い。古紙トイレットロールが安くて増えているようである。約2～3倍輸入が増えている。

G—Q： インフルエンザの流行に伴う製品需要について

M—A： タオルペーパー(古紙入りのタオルペーパー)は病院関係では増えるのではないか。

東資協との懇談会

[平成21年9月15日(火) pm4:00]

於) 組合会議室

参加者：東京都資源回収事業協同組合 15名
東京都製紙原料協同組合 13名

代表挨拶

近藤理事長 (東京協組)

リーマンショックから1年がたち、アメリカが政権交代をし、日本も政権交代して激動の時代に入っております。我々の業界も大手製紙メーカーが1年以上の大減産をしており、古紙の回収量も毎月、前年同月比を下回る厳しい状態が続いています。お得意さんであります製本、印刷業界も、生き残りをかけた生存競争が続いている状況であります。私たちの業界もいかに効率的に回収をしていくか、生き残りを考えていかなければならない時代に入ってきたように思います。本日は、お互いの情報交換を通して、今後の対策でひとつでも身につく事があればと願っております。

吉川理事長 (東資協)

日本では政権交代があり、東京都においても自民党が第1党から民主党に代わりました。先日、組合としての予算要望をしに東京都を訪問した際、自民党、公明党、民主党と今までにない反応でした。自民党の方から抜き取り問題に対しての資料の配布を受け、本気でやる気になってきた感じを受けました。この不況をいかに乗り切るか、今後、私ども回収業界とすれば、ある程度、行政とのお付き合いの中で生き延びているわけで、これから税収が減った中でどのようにしたらいいのか模索をしているところです。

1. 古紙全般に関する現況

赤染直納部長 (東京協組)

昨年10月末のリーマンショックにより世界同時不況となり、主に中国向け古紙価格が大暴落した。それを受けて国内メーカー、洋紙、板紙とも古紙価格を下げた。国内の洋紙メーカーの大減産で古紙問屋に対する注文量も5割減の状況。

国内メーカーの製品在庫が、いつ頃、どの程度、調整がとれてくるのか。夏くらいには調整がとれる予測をたてていたが、9月に入っても調整が取れず減産強化となり厳しい状況が続いている。段原紙メーカーでは、冷夏の影響を受け食品、飲料水、家電製品の売れ行きが悪く減産強化となっている。依然として国内は厳しい状況が続いている。中国を中心とした輸出は、ゆるやかな回復をしてきており国内価格にかなり近づいた。しかし、9月に入り再び価格が下がってきており、10月の国慶節の影響で10月半ばまでは動きのにぶい状況が続くと思われる。



2. 産業古紙の現況

上田直納副部長 (東京協組)

産業古紙は、発生と使用のバランスがとれやすい。今年に入り輸出は好調だが、製本のさい落は輸出には適さない。昨年あたりから雑誌の輸出が増えてきた。価格面では中国が下落し、国内も弱含みとなってきている。

特更は、マンガのさい落を使うが現在は、マンガと新聞を使っている。マンガは発行部数が落ちてきている。

家庭紙原料は、一時は洋紙メーカーがケントを使っていたため全体的に品薄となった。しかし現状では国内の洋紙メーカーの稼働が少ないため、各家庭紙メーカーは在庫を持っている。

3. その他

大久保理事（東京協組）

昨年の紙の生産は3000万トンであったが、今年には2800万トンで200万トンの差が出てしまうのが最大の問題点である。輸出と言う方法があるが価格面での問題と為替の問題がある。

新聞の古紙についてはチラシが混ざっているから、発行部数より量的には多く出ていく。広告を少なくしようと言う傾向に対し、出版業界は苦勞している。

日本の古紙の品質は良いので輸出等で中国も日本の回収システムに対して関心を示している。

4. 資源回収業界の動向（東資協）

資源業界は昨年の夏ごろまでは良かったが、リーマンショックにより秋から価格的には高値の半分くらいに落ちてしまった。

鉄を扱っている業者は、鉄と紙は似ているところがあり、古紙を含めて昨年までは景気の恩恵を受けていた。

段ボールは国内では、さばききれないので輸出に回したが、しばらく赤字輸出が続いた。4月頃から若干、良くなってきて現在なんとかなっている状況である。

日資連の「再生資源回収事業者」認定制度についての説明があった。認定されると「リサイクル

化証明書」が発行され消費者（排出者）は再生資源物が適格に再資源化されたことを確認することができる制度。

5. その他

東資協のかかえている問題点

資源が不足していく中で行政の入札について考えていかなければならない。入札が正しいものかわられる点が多い。

廃棄物再生事業者登録の講習会

11月4日（水）上野・精養軒「銀杏の間」において廃棄物再生事業者登録の説明会が午後6時より行われました。

会場には古紙商品化適格事業所の資格を取得されている49社52名の事業者が中心となり講習会を受講されました。



司会は高山総務部長が担当し、近藤理事長より講習会の主旨について説明がありました。講師には東京都環境局廃棄物対策部一般廃棄物対策課施設審査係の和田貴樹次席を迎え講義が始まりました。講習では内容や手続き等の説明があり、後半

には活発な質疑、応答の時間もありました。約1時間半の講習でしたが、参加された皆さまが熱心に受講されているのが印象的でした。



青年部主催 王子製紙(株)富岡工場の 視察研修会

荒川支部 宮内 啓悟

2009年9月7日

青年部主催で、王子製紙(株)富岡工場の視察研修会を行うという事で、私は、大手の工場を視察した事が無かったので参加しました。

工場に着いて、王子製紙さんから規模や設備について、レクチャーを受けその後バスに乗って場内を視察さらに新型N-1マシンを見せてもらいこれまで、見てきた工場と比較してもその規模の大きさと、最新の設備に目を奪われ感動すら覚えました。

このような、最新マシンを視察できる経験は頻繁にあるものではなく、貴重な体験をしました。

今回、この視察研修会に参加出来ていろいろ勉強になりました。

また、この様な研修会があれば、積極的に参加して行きたいと思います。



視察報告

文京支部 持永 毅

1. 日程:平成21年9月7日(月)～9月8日(火)

・参加趣旨:今年2月稼働開始のN-1マシン及びDIP、バイオマスボイラの視察

・参加者 : 20名

1. 視察概要

〈全体〉

敷地:約57万m²(東京ドーム14個分)

川を挟んだ向かい側に約51万m²の用地を買収済み。川底をパイプラインが走っている。

従業員:約600人

生産:生産量約5.2万t/月。約80%(約4万t/月)が塗工紙。製品は主に東京・大阪に船便で輸送(東京:王子物流浦安倉庫へ)。

創業:1959年(S.34)8月15日、神埼製紙富岡工場として操業開始。

〈設備〉

大型のN-1マシンを導入し、6台を停機するS&B(スクラップアンドビルド)計画。現在6台中5台停機済みであり、来月2号マシンを停機して計画完了となる。

KP設備3台(能力1,300t/day)。DIP2台(能力300t/day)。

〈ボイラ〉

蒸気量320t/hrの能力を持つ大型バイオマスボイラーが設備されている。主燃料は廃プラスチック

ク(1万t/月)・RPF(5千t/月)・木質廃材(7～8千t/月)・石炭(4～5千t/月)を利用しており、オイルレスとなっている。

廃プラに関しては、ボイラを傷めるため塩素は大敵。

〈DIP〉

古紙使用量は8～9,000t/月であり、銘柄は新聞古紙が90%、雑誌古紙が10%である。主に関西方面からの入荷が多く、同社の大阪安治川倉庫から船で運んできている。古紙在庫は3,000tくらいで推移している

新聞：チラシ混入率は一時期よりも減り、現在20～30%程度。

雑誌：コスト低減の目的で混入している。背のり、ビニールは問題ないが、板紙系は問題。

残本に関しては、歩留まりが悪いいため単価次第となる(今の所は検討無し)。

現状配合変更は考えていないとの事。

〈N-1マシン〉

特性：抄紙→塗工までの一貫生産(オンコーターマシン・オンマシンスーパーカレンダー)

生産：年産35万t(約1,000t/day)

能力：秒速(1,600m/分)

私見

大型のマシン導入に伴い、それに見合ったDIPやボイラ等の増強があった。それに関わる受け入れ設備や見学施設が充実しており、今回もN-1マシンについては施設からの見学であったが、全容が見やすいうえ、案内者の声も機械音に打ち消されること無く十分な理解となった。

第51回 清風会ゴルフコンペ開催



荒川支部 廣田 圭吾

無念の2位となった前回から、半年。再び清風会のコンペに参加です。今回のコースは栃木県小山市の「ひととのやカントリー倶楽部」です。ちなみに「ひととのや」は地名で漢字だと「神鳥谷」と書きます。読めん。このコース、今年の春先に廻りました。ボロボロでした。ティーショットで右に消える魔球を持つ自分では、林の中でのプレーばかり…今回はハンデ様も減ったし、秋ゴルフの成績も下降線。野望は持たずに車を走らせました。

秋らしい穏やかな日和となり、珍しく時間にも余裕を持って到着。同じ組は気心知れた朝倉さんと坂内さん。楽しいプレーになりそうでした。そう。最終ホールまでは…。

前述通り、両サイドの林がしっかり嫌がらせしてくれるので、なかなかフェアウェイを歩けず、グリーン廻りまでお一人様状態。グリーンでお二人に「久しぶりだね。」と優しく挨拶されます。が、パットだけは神がかり状態。紙の神様か。そう、東京オリンピック断念の無念を晴らすべくグリーン上ではちっこいオリンピックが開催されていたのです。

後半になっても、魔球は冴えわたり、クロスカントリー三昧なものの、パットは入る入る。17番までに金銀銅で8つのメダル獲得。キャディーさんに「普通、こんなに入れる人はもっとスコアいんだけどねえ。」と言われながら迎えた最終ホール。アプローチはグリーンエッジに。ダイヤモンドチャンス到来。でも6メートルでスネークライン。皆さん「こりゃはいらんだろ」という空気。しかーし。「うりゃ」と気合に押し出されたボールはS字ラインを描きカップへ吸い込まれました。グラウンドスラム達成。なんかツアーの最終ホールで優勝パット入れた気分。お連れ様は疲れ切った表情に…ちなみにそのパットで120打目でした。キャディーさん再び「普通、こんなに入れる人は…」

優勝と一緒に廻った坂内さん。念願の初優勝です。準優勝は初参加で山口さんでした。ベスグロは増田さんで3位でした。

尚、今回より清風会会計担当となりました。会計資料を前任の坂田さんから頂き、目を通したところ、清風会の四半世紀に及ぶ歴史を再認識いたしました。諸先輩方が築いてきた伝統を守りながら、より良い清風会を目指してしっかりと引き継いでいきたいと思いました。

支 部 便 り

新組合員になって

足立支部 (有) 丸保紙業 片岡 繁

この度、東京都製紙原料協同組合に加入させていただきました足立支部 (有) 丸保紙業・片岡繁です。何卒、よろしくお願い致します。

所在地は環状7号線が荒川を渡る鹿浜橋の隣です。数年前、局地として都内最高気温を記録した場所なのですがご存じでしょうか。

さて、加入の理由なのですが皆様から比べ狭い土地で扱い量もわずかですが、一応、古紙問屋として業を営んでおり加入の必要性を感じていたおりに、同じ足立区の近藤理事長より、かなり強めの勧誘を受け決めました。

組合名簿を拝見しますと足立支部に限らず、多数の知り合いがいる事を知り心強く思っています。さらに皆様の仲間となれますよう心掛けてまいりますので今後ともよろしくお願い致します。

組合員の広場

『明治神宮』あれこれ

城北支部 坂田秀一郎

さしのぼる朝日の如くさわやかにもたまほしきは心なりけり。茜色に映える雲を破って昇りくる朝日のような心持ちをもちたいものだと云う。第122代明治天皇の御製の歌である。

16才で即位して明治45年7月1日の御崩御までに10萬首の和歌をお詠みになっておられる。明治天皇は生前より陵は京都伏見桃山と決めておられる。東京に神宮をとの国民の声もあり、実業家の渋沢栄一、東京市長 阪谷芳郎、政界 原敬、大隈重信氏等が発起して大正9年11月1日鎮座した。代々木の内苑と外苑両苑合わせて100万平方メートル。日本人の心の教育と文化の高揚と云う国際化の進む現代社会の重要な使命を担って広大にして緑豊かな境内を、東京の都心に永永と保っているのが明治神宮である。兎に角広い33万坪。社の木は全部献木苗木で10万本と決定。この献木システムの発案者は井上友一氏、勤労奉仕は各地の青年団でのべ100万人動員された。一日の労働賃金は一円八十銭が支給された。献木の木の種類は東大の先生が決め、赤松、黒松、杉、イヌツゲ、ヒノキ、クス、シイ、カシ、ツツジ、ムク、サワラ、ハゼ等で 桜、梅、果樹木はないそうである。献木者は東京の小、中学生、近郊の市町村志篤家、深川の木場、材木問屋、天理教、埼玉、岡山、福岡、台湾総督府その他日本各地となっている。

現在献木の苗木が89年目を迎え、相当大きく成長している。当時の人々は100年後を想定して植林を行っている。そこには当時の人々のしたたかな、そして緻密な計算がなされている。現在

89年目であと11年で見事に完成するとの事で、植樹のシステムが三段階に植樹されており、その効果が現在現れているとの事である。

初詣に参拝する人300万人。神前で横綱奉納土俵入りはTVでご存知の方も多いただろう。現在神前結婚式は20—30組毎日執り行われているので、神主、宮司さんも多忙のようである。今回アメリカの副大統領、ヒラリー・クリントン氏も来日早々参拝、玉串の奉奠、神楽の奉納を執り行ったとのことである。明治神宮の拝殿の無数の疵は、コインを遠くから参拝客が投げた疵とのことであった。その疵の数の多いことにびっくりさせられた。明治神宮を参拝される機会があれば、参考にして下さい。



和製英語ってややこしい! その②

広報部長 清水弘允

今回は野球で使われているカタカナ用語について考えてみましょう。カタカナ用語だから英語から来た言葉だと思いがちですが意外にそうではありません。

先ず「野球」と言う言葉は英語の baseball からの訳語です。そのまま訳せば「塁球」になりますが、野球が日本に紹介された明治初期、俳人の正岡子規により「野球」と訳されたと言われています。逆に「野球」をそのまま英語に訳せば fieldball でしょう。中国では、バットでボールを打つイメージが強かったのか棒球と訳されています。

「フォアボール」 four ball

ストライクが入らず、ボールが4個先行すれば四球となりフォアボール。誠に分かりやすい表現ですが、これは和製英語です。英語で四球は walk。つまり「歩かせる」と言います。「敬遠のフォアボール」は intentional walk となり直訳すれば「意図的な歩かせ」です。

牽制球は pickoff throw と言って「摘み取る為に投げる」イメージです。死球は文字通り dead ball ですから直訳がそのまま日本語になっています。

「ナイター」 nighter

夜間照明で野球をするのがナイターですが、これも和製英語です。英語では night game「夜間試合」となります。

「セーフティ・バント」 safety bunt

英語では safe bunt といいます。なぜ safe が safety に替わったのかよく分らない。

「キャッチボール」 catch ball

英語でキャッチボールは、ただ catch キャッチとだけ言います。「キャッチボールをする」は、英語では～ play catch です。

「バックネット」 backnet

キャチャーの後方に飛んだボールを止めるネットだからバックネットでピンと来ますが、英語では backstop と言います。止める方のイメージが強いのでしょう。

「メジャーリーグ」 major league

メジャーリーグは和製英語ではありませんが、この発音では意味が通じないと思います。何故なら major league はメジャーリーグと発音するからです。メジャーと発音すると measure、つまり「寸法」とか「寸法を測る」の意味になります。日本語でも「メジャー」と言えば物差しの意味で使われています。その点 minor league はマイナーリーグと正しく発音されています。

「KO」ノックアウト =knock out

小さい頃ノックアウトなら NO と書けばいいのに、何故 KO と書くのか疑問でした。中学生になって knock out のスペルを知り納得しました。

「指名打者」DH (デジグネイテッド ヒッター) =designated hitter の略

以前はなぜ指名打者を DH と言うか分らなかったのですが、英語をやってから分かりました。

「代打」 pinch hitter

pinch hitter は、ピンチ = 窮地の時に代わりに打席に入る hitter = 打者と言う事から代打と言う意味に転じたのでしょう。英語でもこのままで通じます。

「満塁ホームラン」

grand slam (グランドスラム)、grand slammer、grand slam homer

grand slam は総なめする、全種目優勝の意味ですが、日本では野球よりゴルフで使われる事が多いようです。ゴルフでは世界4大タイトルを獲得する事を言います。因みに満塁をフルベース full base というのも和製英語で、英語なら The bases are full. になります。

「ブルペン」 bullpen

bull は雄牛、pen は囲い場の意味ですので、bullpen は「雄牛の囲い場」の意味ですが、転じて留置所、ぶた箱、そして野球のブルペンになりました。もうチョットましなネーミングでも良かったのに。



♪ことわざミニ知識♪

「情けは人のためならず」

情けを人にかけておけば、めぐりめぐって自分によい報いが来る。人に親切にしておけば、必ずよい報いがある。・・・広辞苑

人に情けを掛けると、その人の為にならない。このように間違った意味で使っている人を見かける事があります。気を付けましょう。

支部スケジュール

千代田支部

支部会・忘年会 12月 7日(月) 菜家
支部会 1月20日(水) 都民銀行
新年会 1月20日(水)

中央支部

支部会 12月11日(金) 場所未定
支部会 1月22日(金) 場所未定

文京支部

忘年会 12月 8日(火)

台東支部

支部会・忘年会 12月7日(日)

荒川支部

忘年会 12月10日(木) 四丁目町会会館
歳末夜回り 12月21日～22日 1～2丁目
新年会 1月6日(水) 宮川

足立支部

忘年会 12月26日(土) 北千住(明日香)
新年会 2月6日(土)

山手支部

忘年会 12月19日(土) 鮭やなぎ
1月新年会は合同新年会に合流

城南支部

忘年会・支部50周年 11月28日(土)
新橋亭
新年会旅行 2月6日(水)～7日(日)

江墨支部

忘年会 12月21日(月) 吉野すし

城北支部

忘年会 12月11日(金) ロサ会館(魚や)

◎直納部共販合同委員会及び忘年会

期日：平成21年12月17日(木)

場所：伊豆栄「梅川亭」

時間：直納部共販合同委員会 午後5時～

忘年会 午後5時30分～

◎第7回合同新年会

期日：平成22年1月16日(土)

場所：日暮里駅前ホテル・ラングウッド

時間：午後6時より

合同新年会の案内書を広報誌とともに同封してあります。毎年楽しい会となっております。奮ってご参加くださるようお願い致します。

お 知 ら せ**[12月会議・催事予定]**

12月3日(木) 常任理事会 (pm2:00～)
理事会 (pm3:30～)

上野・東天紅

12月3日(木) 清風会 講演会 (pm5:00～)

清風会忘年会 (pm6:00～)

上野・東天紅

12月6日(日) 第2回関東商組との親睦ゴルフ

大会 太平洋クラブ成田コース

8組を予定

12月17日(木) 直納部委員会及び忘年会

直納部会 (pm5:00～)

忘年会 (pm5:30～)

伊豆栄「梅川亭」

12月29日(火)～1月4日(月)

組合事務局・年末年始休暇

[古紙価格]**[東資協の古紙4品の標準売値]**

平成21年11月6日現在

新聞 7円(横ばい)

雑誌 4円(横ばい)

段ボール 6円(横ばい)

色上(並) 4円(横ばい)

[古紙品質調査事業]

平成21年10月～12月

「新聞 古紙」 14,000円/トン

「段ボール 古紙」 16,000円/トン

会議概要 [9月・10月]

9 月度定例理事会

[平成 21 年 9 月 3 日 (木)] pm4:00

出席理事 27 名 於) 組合会議室

近藤理事長挨拶

7月に製本工組との古紙関係協議会を当組合が当番と言うことで上野・精養軒で行いました。8月には東京返本加工協同組合の総会があり例年のように招待され参加してきました。又、先日、直納部の納涼会が伊豆栄「梅川亭」で市況交換を交えながら行なわれました。全原連関係では国内古紙需給安定システム検討委員会とジャパンプランドを作るためのJ-BRAND 制定委員会が動いております。総選挙では民主党が圧勝し、当組合の顧問でもあります松原仁衆議院議員も当選されました。今後も組合を通して全原連の役割が大きくなっていくと思います。今年もあと4ヶ月となりましたが皆様のご協力をよろしくお願い致します。

[各部報告]

[総務部] 組合会館2階テナントの募集は決まっていない状態である。

[直納部]

直納部委員会及び納涼会を8月28日に伊豆栄「梅川亭」で開催した。参加者は業者、ゲスト、委員を含め36名で盛大に行われた。11月20日～23日海外メーカー視察研修会を実施予定。行先は中国を予定している。10月29日の静岡県紙業協会家庭紙部会に向けて集直委員長会議(10月15日)、直納部委員会(10月19日)を開催予定である。

市況全般は国内相場は変化なし。洋紙の製品在庫の消費が芳しくない。減産を強化している。冷夏のため食糧、飲料、家電製品の売れ行きが悪く板紙は減産中。関東商組の輸出は5銭値上がりしたが、現在は若干、下げている。中国は国慶節で10日ほど工場が閉鎖になるが準備はできている。クリスマス商戦用のダンボールの生産も終了している。今後、一進一退の状況が続くのではないかと。秋需が不発に終わると大幅値上げは考えにくいのでは。

[品目別市況]

[家庭紙] 家庭紙は、相変わらず古紙の発生減。15～20%減。家庭紙メーカーは8月のお盆時期は荷受をストップ。メーカーは古紙の在庫を持っている。家庭紙メーカーへの古紙の納入はスムーズに入っている。発注は秋に入り良く見ても横ばいの予想である。家庭紙メーカーは古紙のタイト感はない。製品ではタオルペーパーが好調である。原料価格はそのまま推移するのではないと思われる。

[新聞・雑誌・段ボール] ピーク時よりも3品とも1円以上古紙価格が落ちている。新聞は発生が悪い。印刷関係が悪いためチラシは20%ほど落ちている。低位安定状態。

雑誌は発生が少ない。価格は国外が国内より下回る。在庫はそんなに持っていない。

[返本] 発生は落ちている。価格は変わらない。

[オフィス古紙] 発生が落ちている。雑誌が悪くなればオフィス古紙の方に来る。機密書類、シュレッダーも減っている。

[集荷部]

発生が2～3割減。この状態がいつまで続くのか。今年一杯、続くのであれば厳しい状態となる。10月の静岡県紙業協会家庭紙部会の会議で価格調整の交渉にもっていききたい。仕事が少ない。

[広報部]

広報誌の9月号を作成中である。原稿を文章でお願いしているが、最終段階に入ってきているので提出がまだの方は早めに出してほしい。内容は新業務部部長、新支部長、新理事の挨拶と製本工組との古紙関係協議会、各支部ごとの納涼会を掲載する予定である。

[事業部]

10月の理事会前でKSD あんしん財団からの災害補償共済事業・他について説明をしたい。古紙商品化適格事業所の更新に関するフォークリフトの講習について調べて後日、報告する予定である。

[青年部]

10月に製本工組2世との会合を予定している。

[近代化推進事業委員会]**[経営革新委員会]**

平成22年3月末の古紙商品化適格事業所の更新に向け、①フォークリフトの講習会の対応②産業廃棄物再生事業者登録の講師依頼③組合独自の古紙品質基準の講習会の実施について検討する。

古紙センター関東地区委員会

[平成21年9月24日(木)] pm2:00～
於) 古紙センター会議室

[需要動向] 09/7月 単位トン、
() は対前年同月比、在庫の() は在庫率

[関東商組32社実績]

[新聞]	仕入	69,047 (91.7%)
	出荷	71,780 (92.8%)
	在庫	14,475 (20.2%)
[雑誌]	仕入	50,817 (95.4%)
	出荷	51,603 (95.2%)
	在庫	11,295 (21.9%)

[段ボール]	仕入	124,922 (96.7%)
	出荷	127,034 (97.4%)
	在庫	23,251 (18.3%)

[関東・静岡実績]

[新聞]	入荷	236,797 (93.2%)
	消費	253,579 (96.5%)
	在庫	160,948 (63.5%)
[雑誌]	入荷	112,302 (93.0%)
	消費	116,871 (93.7%)
	在庫	65,300 (55.9%)
[段ボール]	入荷	260,672 (86.5%)
	消費	252,909 (83.1%)
	在庫	120,439 (47.6%)

[業者側コメント]

[新聞・雑誌][段ボール] 及び [メーカー側コメント] は省略いたします。

古紙センター業務委員会

[平成21年9月30日(水)] pm1:30～
於) 古紙センター会議室

- [1] 平成21年10月～22年3月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について(最終ページ参照)
- [2] 集団回収実施団体への感謝状交付について
- [3] その他
 - ①捺染紙混入によるトラブル発生と混入防止対策
 - ②中国紙リサイクルシステム強化研修コース(9/2～11)への協力について
- [4] 古紙の需要・市況動向について

詳細につきましてはページ数の関係で割愛させていただきます。

全原連 平成21年度 第4回役員会

[平成21年9月30日(月)] pm2:40～
於)古紙センター会議室

理事・監事60名：出席60名

(内、委任出席32名)欠席0名

(1) 古紙再生促進センター 関係

業務委員会(9月30日開催)

平成21年10月～22年3月の段ボール・新聞・
雑誌の消費計画について

段ボール：

10～12月 1,803,410t(前年比92.2%)

1～3月 1,598,475t(前年比105.8%)

10～3月 3,401,885t(前年比98.1%)

・新聞：

10～12月 1,055,522t(前年比99.8%)

1～3月 1,032,906t(前年比105.7%)

10～3月 2,088,428t(前年比102.6%)

・雑誌：

10～12月 594,582t(前年比99.7%)

1～3月 552,697t(前年比109.4%)

10～3月 1,147,279t(前年比104.1%)

集団回収実施団体への感謝状交付について

推薦地区委員会：中部地区委員会

・推薦団体：

①稲沢市立六輪小学校PTA、②明円町子ども会、

③津田学園、④富山市立新庄小学校PTA、

⑤栗田区リサイクル

その他

①捺染紙混入によるトラブル発生と混入防止対策

「捺染紙の排出方法についてのお願い」チラシ
増刷し、各地区へ配布

雑誌協会等関係先へPR

②中国紙リサイクルシステム強化研修コース

(9/2～9/11)への協力

③今後の主なイベント予定

古紙回収推進事業、新宿駅西口広場における紙
リサイクル促進イベント開催

場所：新宿駅西口イベントコーナー、

日時：平成21年10月4～6日

平成21年度「紙リサイクルセミナー」開催

開催日時：平成21年10月30日(金)

13:30～15:55

開催場所：東京商工会議所国際会議場

講演内容：「中国における最近の古紙情勢につい
て」、「RPF(固形燃料)の最近の動向とJIS
化について」、「地方自治体の古紙関連施策
の推移と現状について」

・紙リサイクルPRソング歌詞募集、最終審査委
員会(10月6日開催)

・全国小中学生紙リサイクルコンテスト最終審査
委員会(11月24日開催)

・古紙回収推進事業・エコプロダクツ2009出展
(12月10～12日東京ビックサイト)

④今後の日程

平成21年10月26日(月)13:30～

業務委員会

平成21年11月25日(水)11:00～15:30

評議員会・理事会・業務委員会

平成22年1月8日(金)13:30～

新年互礼会

平成22年1月21日(木)11:00～15:30

評議員会・理事会・業務委員会

(2) 業界 関係

日本製紙連合会関係

「中国紙リサイクルシステム強化研修報告」につ
いて

日時：2009年9月2～11日、

海外技術者研修協会(AOTS)横浜研修センター

研修者：紙板紙会社(17名)、古紙関連会社(7名)、
業界団体(4名)計28名

(3) 全原連 関係

総務財務委員会(9月17日開催)

4月～8月度組合経理財務内容は予算通り順調
に推移

正副理事長会・特別委員会(9月30日開催)

国内古紙需給安定システム検討委員会について
経済産業省、政権交代により調査未着手

J-BRAND 制定委員会について

日本古紙品質認定制度(J-BRAND)運用規則
(案)について検討

審議事項(役員会上程、承認事項)

①「古紙商品化適格事業所」・「古紙リサイクルア
ドバイザー」申請認定について

リサイクルアドバイザー:

8月15日(8社、23名)累計(425社、1,856名)

9月15日(6社、51名)累計(427社、1,907名)

(4) 各委員会報告

経営革新委員会

日本古紙品質認定(J-BRAND)制度について

基本スキーム:第一次認定品目

段ボール古紙・新聞古紙

認定制度運用スケジュール:

平成22年度中運用開始

認定制度の進め方:「J-BRAND 制定委員会」

22年度上半期中に設立して制度の概要を決
定する。

制定委員会の構成:

全原連正副理事長、全原連委員会委員長、全
原連傘下单組理事長、全原連経営革新委員
会副委員長

・委員会の開催:国内古紙需給安定システム検
討委員会と同時開催する

優良性評価2事業の広報宣伝について(11
月11日合同会議九州地区開催)

広報宣伝対象:自治体、古紙回収諸団体(町
会、子供会等)、古紙排出先企業等

広報宣伝方法:全原連ベース、単組レベルで
の広報宣伝方法に則った宣伝ツール作成と
広報宣伝の実施・ホームページの広報宣伝

その他

「古紙商品化適格事業所」来年3月末更新に
ついて申請書類の未提出分をチェック

「古紙リサイクルアドバイザー」講習会につ
いて未受講者をチェック

・「安全手帳」(第二版)は来年「春の作業安全
月間」において配布予定

●需給委員会

・2009年古紙需給予測は458万tと予測
・海外視察調査は来年3月にドイツ予定

●IT推進委員会

・ホームページの見直し、適格事業所・リサイ
クルアドバイザーのコーナー新設

・製紙原料システム拡販のアンケート調査実施(組
合員600社、員外300社)

・渉外広報委員会

・優良性評価2事業の広報宣伝について11月
経営革新委員会合同会議開催予定

・2009年エコプロダクツに出展予定のパネル
作成。

10 月度定例理事会

[平成21年10月2日(金)] pm4:00

出席理事 25名 於) 組合会議室

近藤理事長挨拶

暑い日が続いていたが昨日、今日でようやく秋らしくなりました。全原連、古紙センターも本格的に始動してまいりましたし、当組合も年末に向け名簿の作成と来年3月に古紙商品化適格事業所の更新を控え準備をすすめております。本日もよろしくお願い致します。

[各部報告]

[総務部] 組合会館2階テナントの募集は決まっていない状態である。

[直納部]

10月の共販輸出は入札が2社で今月もスキップ扱い。海外メーカー工場視察研修(11月20日～23日)は、3日目(22日)の日程を変更し中国最大の製紙工場の視察を追加した。10月29日の静岡県紙業協会家庭紙部会に向けて集直委員長会議(10月15日)、直納部委員会(10月19日)を行う。多数参加してほしい。

市況全般は国内・国外とも厳しい状況である。洋紙メーカーは操短を強化し注文量をカットしている状況である。板紙メーカーも冷夏の影響を受け減産強化と注文量カットを強化している。相場は変化なし。輸出は非常に弱含みの状況である。

[品目別市況]

[家庭紙] 家庭紙は、10月に入り増産計画を出しているメーカーが増えてきた。本格的には来年になるのか。洋紙メーカーの古紙発注量は横ばい。発生は10%～15%落ちている。家庭紙メーカーはタオルペーパーの動きがいい。タイト感はまだ薄い状況である。輸入紙が非常に増えてきている。

[段ボール] 10月は輸出が低調。国内メーカーの減産。発注が減ってきている。

[新聞・雑誌] 新聞が発行部数が減っている。チ

ラシの減少の影響が大きい。発生が少なく先行きは細い状況である。

雑誌は出版関係が減少しており発生も減少している。メーカーの注文も少ない。

[返本] 発生は昨年対比10%減で推移している。返本が少なく、出版関係が厳しい状況である。

[集荷部]

発生がどんどん落ちてきていて先細りである。価格が底値のため価格の回復をしてもらいたい。10月の静岡県紙業協会家庭紙部会の会議で価格調整の交渉にもっていきたい。10月15日の集直正副委員長会議の時に合わせて集荷部委員会を開き対策を決めたい。

[広報部]

広報誌は11月号の準備に入っている。去年は60周年の特集があったが、今回は掲載予定の記事が少ない。「時の視点」については全原連の瀧本委員長に古紙商品化適格事業所、古紙リサイクルアドバイザー、ジャパブランドを中心とした記事をお願いする予定である。他には、いつものように各支部の11月～1月のスケジュールを掲載予定である。

[事業部]

理事会前にKSDあんしん財団からの災害補償共済事業・他についての説明をした。利用できる組合員がいたら利用してほしい。他に独身者で組合員と関連企業の社員との顔合わせの場を作り、将来に向けた有益な可能性の場としたい。

[青年部]

10月21日に製本工組2世との会合を予定しており準備中である。

[近代化推進事業委員会]

経営革新委員会：平成22年3月末の古紙商品化適格事業所の更新に関連して、11月の理事会終了後に廃棄物再生事業者登録の講習会を実施する。場所は上野精養軒で50名ほどの受講を予定している。午後6時～8時頃まで。

集直正副委員長会議

[平成21年10月15日(木)] pm4:00

出席委員12名 於) 組合会議室

[直納部]**古紙全般について**

国内の洋紙メーカーは厳しい状況である。製品在庫は、はけず9月10月は減産強化。板紙メーカーはシルバーウィーク明け若干、販売が戻りつつある。輸出は中国の国慶節が終わり多少、強含みであるように思われる。

家庭紙

10月以降、増産していく家庭紙メーカーが多くみうけられる。集荷が落ちていきおり倉庫が空いてきている。出版、製本は低調な動きである。家庭紙メーカーの動きは各家庭紙メーカーにより違うのでタイト感にいたるまでにはなっていない。価格的には今までのままで推移するのではないかと思われる。

オフィス古紙

10月に多少の発生があったが今は落ち着いている。依然として発生は落ちておりシュレッダー類も10%～20%ダウンしている。

雑誌・段ボール

中国向けの段ボールは堅調に推移している。雑誌は現状と変わらない輸出基調である。

[集荷部]

発生が30%ほど落ちている。10月は9月よりは良かったが今は、バッタリと止まってしまった。製本関係が悪い。メーカーからの発注数量が落ちている。古紙の単価が上がらないと集荷はやっていけない状況である。

家庭紙部会との会議に向けて

- 発生が悪い状況を伝える
- 集荷の現状と古紙価格についての検討

直納部委員会

[平成21年10月19日(月)] pm4:00

出席委員17名 於) 組合会議室

市況全般について

国内の市況は9月10月と変わらない状況。洋紙メーカーは厳しい状況で減産強化。板紙メーカーは若干、販売が良くなってきている。輸出は若干の値上がり。内需は底堅い。

段ボール・新聞・雑誌

段ボールは若干、延びている。メーカー間に格差はあるが、いい傾向にある。新聞用紙はオリンピック後、活性化していない。雑誌の発生は低調。

切付

チラシが減少している。出版不況で本の売れ行きが悪い。発生が悪くタイト感はしばらく出ないであろう。

オフィス古紙

発生が10%～20%減少している。

台紙

メーカーの使用が少ない。発生が少ないが在庫が少しずつ溜まってきている。

家庭紙

家庭紙メーカーは、発生は落ちているがタイトとは思えない。

各社よりの報告

発生は少ない。在庫はランニングストックの所が多い。入荷は少ないが減産のため出荷も少ない。

総合

需給のバランスはとれており、古紙の急激なタイト感にはならないのではないか。

静岡では、発生が少ない事と現状をたんと報告する。

古紙センター業務委員会

[平成21年10月26日(月)] pm1:30～
於)古紙センター会議室

- [1] 公益財団法人移行認定申請のスケジュール等について
- [2] 紙リサイクル経験者の活用制度実施要項の一部改定について
- [3] その他
- ①捺染紙排出方法に関する野外広告業界専門誌(連合報道)への広告掲載
- [4] 古紙の需要・市況動向について

ページ数の関係で割愛させていただきます。

全原連 平成21年度 第5回役員会

[平成21年10月26日(月)] pm2:40～
於)古紙センター会議室

理事・監事60名：出席60名

(内、委任出席33名)欠席0名

古紙再生促進センター 関係

業務委員会(10月26日開催)

公益財団法人移行認定申請のスケジュール等について

平成21年11月25日(水) 11:00～13:00
臨時(第1回)評議員会

- ①定款の変更原案(現行寄附行為の変更案)に関する件
- ②最初(公益法人移行後)の評議員候補者の推薦に関する件
- ③最初(公益法人移行後)の理事・監事の選任に関する件

平成21年11月25日(水) 13:00～14:30
臨時(第1回)理事会

- ①定款の変更原案(現行寄附行為の変更案)について(理事現在数の4分の3以上の議決が必要)
- ②最初(公益法人移行後)の評議員候補者の推薦について
- ③最初(公益法人移行後)の「代表理事・業務執行理事」の選任について

平成21年12月1日(火) 13:30～
最初の評議員選定委員会

- ①最初の評議員の選定

平成22年1月21日(木) 11:00～13:00
臨時(第2回)評議員会

- ①定款の変更の最終案につて

②関連諸規程制定等について

③認定申請書について

平成22年1月21日(木) 13:00～14:30

臨時(第2回)理事会

①定款の変更の最終案について

②関連諸規程制定等について

③認定申請書について

12月～1月(事務局)

①申請書事前チェック

②添付書類の事前確認・収集等

2月 内閣府に対して移行認定申請

紙リサイクル経験者の活用制度実施要領の一部改定について

変更内容は、今後各地区での紙リサイクル経験者の増員を図り更なる活動を可能にするため、日当の増額(謝金に変更)と遠隔地に出向く場合の宿泊費を必要に応じて認めるものである。

現行:交通費(実費)と日当(一律3,000円)、宿泊は認めないものとする。
改定:交通費又は旅費の実費と謝金(一日当たり6,000円とし、源泉徴収税(10%)引き)とする。宿泊はセンターが認めた場合、宿泊費を実費で支給する。

その他
①捺染紙排出方法に関する屋外広告業界専門紙(総合報道)への広告掲載について
掲載3回予定:第1回(平成21年10月15日)、第2回(平成21年12月末予定)第3回(平成22年2月予定)

その他

②今後の主なイベント予定
平成21年度「紙リサイクルセミナー」開催について

開催日時:平成21年10月30日(金)
13:30～15:55

開催日時:平成21年10月30日(金)

13:30～15:55

開催日時:平成21年10月30日(金)
13:30～15:55

開催日時:平成21年10月30日(金)

13:30～15:55

開催場所:東京商工会議所国際会議場

講演内容:

「中国における最近の古紙動向について」(王長君)

「古紙業者の古紙品質管理能力の評価基準と評価制度について」(西原弘)

「地方自治体の古紙関連施策の推移と現状について」(小笠原秀信)

古紙回収推進事業・エコプロダクツ2009出展について

日時:12月10日(木)12月12日(土)

場所:東京ビックサイト・東展示場

シンポジウム開催:12月10日(木)14:00～16:30

③今後の日程

平成21年11月25日(水)11:00～14:30

評議員会・理事会(センター会議室)

平成21年11月25日(水)14:30～15:30

業務委員会(センター会議室)

平成22年1月8日(金)13:30～

新年互礼会(ホテルグランドパレス)

平成22年1月21日(木)11:00～14:30

評議員会・理事会(センター会議室)

平成22年1月21日(木)14:30～15:30

業務委員会(センター会議室)

(2) 業界関係

経済産業省紙業課関係(報告事項)

「古紙商品化適格事業所」「古紙リサイクルアドバイザー」認定進捗状況報告

特別委員会「日本古紙品質認定制度(J-BRAND)検討委員会」及び「国内古紙需給安定

システム検討委員会」経過報告

インドネシア向け古紙輸出検査機関受託に関する報告

2009年需給予測について報告

(3) 全原連 関係

総務財務委員会（10月15日開催）

4月～9月度組合経理財務内容は予算通り順調に推移

審議事項（役員会上程、承認事項）

①「古紙商品化適格事業所」・「古紙リサイクルアドバイザー」申請認定について

古紙商品化適格事業所：

10月15日（2社、2事業所）

累計（402社 802事業所）

リサイクルアドバイザー：

10月15日（12社、35名）

累計（429社、1,942名）

②エコプロダクツ 2009 出展について

全原連渉外広報委員会として毎年パネルを出展、今年も紙業タイムス(パネルデザイン依頼作成中、予算 50 万円位)

(4) 各委員会報告

●経営革新委員会

「日本古紙品質認定（J—BRAND）制度」について

①経過報告

- ・21年9月理事会においてJ—BRAND認定制度の運用を平成22年度内に開始することを決定。全原連内に「J—BRAND 制定委員会」を設立、平成22年度内の運用を目指す。第1回制定委員会9月29日開催、9月30日全原連理事会において「J—BRAND 認定規則案」を報告、引き続き11月の理事会に「J—BRAND 運営細則案」を上程するように進めております。

②制度の目的

- ・日本古紙の品質向上（品質均一化）を図り、良質原料古紙の供給による国内製紙会社の古紙利用促進および古紙国際市場での日本古紙の競争力の向上並びに本制度を担保する制度として「古紙商品化適格事業所認定制度」「古紙リサイクルアドバイザー認定制度」の2制度があることです。

③本制度に係る懸念事項の確認

- ・古紙再生促進センター各地区委員会への報告と品質仕様の統一を図る
- ・「J—BRAND」のナショナルブランド（国内統一仕様）化を図る
- ・ブランド棄損による組合員の罰則規定は原則規定とし運用は地区組合主体とする（但し、バーゼル条約違反は例外とし、その他は運営細則で定める）
- ・本制度は通常取引に伴う利害当事者間の損害問題には係わらないものとする
- ・市況に伴う「マーケットクレーム」防止を本制度運用で図って行く
- ・本制度は「品質認定制度」であり「品質保証制度」ではないので利害者間の損害賠償問題は伴わない
- 組合員の代納業者等の「J—BRAND」付与については運営細則で定める
- ユーザーの品質仕様が均一化できない銘柄（雑誌等）は当面運用対象としない
- （対象品種は段ボールと新聞の2銘柄とする）

「古紙リサイクルアドバイザー」講習会について
来年4月更新にあたり、21年度（3月まで）中に講習会を開催し、未受講者全員講習を完了すること（全原連事務局よりお願い）

その他

「古紙商品化適格事業所」来年3月末更新について

て申請書類の未提出分をチェック
「古紙リサイクルアドバイザー」講習会について
未受講者をチェック

「安全手帳」(第二版)は来年「春の作業安全月間」
において配布予定

需給委員会

2009年古紙需給予測は458万tと予測
海外視察調査は来年3月にドイツ予定(11月
13日(金)全原連事務局会議室開催)

IT推進委員会

11月11日(水)～12日(木)
九州商組事務局会議室開催
九州商組組合員へ「全原連製紙原料システム」
拡販デモ(東芝情報機器)

渉外広報委員会

11月11日(水)～12日(木)
九州商組事務局会議室開催
優良性評価2事業の広報宣伝について経営革
新委員会合同会議
2009年エコプロダクツに出展のパネル作成。

古紙センター関東地区委員会

[平成21年10月27日(火)] pm2:00～
於)古紙センター会議室

[需要動向] 09/9月 単位トン、
()は対前年同月比、在庫の()は在庫率

[関東商組 32 社実績]

[新聞]	仕入	72,294 (89.6%)
	出荷	71,342 (89.8%)
	在庫	15,371 (21.5%)
[雑誌]	仕入	56,463 (97.9%)
	出荷	54,865 (96.7%)
	在庫	12,842 (23.4%)

[段ボール]	仕入	130,995 (98.2%)
	出荷	128,600 (96.3%)
	在庫	25,575 (19.9%)

[関東・静岡実績]

[新聞]	入荷	235,435 (95.4%)
	消費	222,227 (88.2%)
	在庫	174,156 (78.4%)
[雑誌]	入荷	113,721 (88.8%)
	消費	122,158 (97.9%)
	在庫	56,863 (46.5%)
[段ボール]	入荷	277,180 (87.1%)
	消費	278,022 (84.6%)
	在庫	119,597 (43.0%)

[業者側コメント]

[新聞・雑誌]

新聞は減少が少し収まってきており重量も少し増えた。チラシは相変わらず落ちている。新聞とチラシの合計では若干、プラスとなり安定してきたようである。

雑誌は週刊誌が悪く落ち込みが目立つ。雑誌が雑紙化している。

[段ボール]

毎月、仕入、在庫ともほとんど同じ状態が続いている。10月は雨がが多く集荷が少なかった。適正在庫を持っておりバランスしている。

[メーカー側コメント]

新聞について:メーカーは減産基調が続いている。各社在庫をかかえている。一部メーカーは新聞古紙の在庫が重くなっている。

段ボールの生産は、昨年と比べ落ちている。末端消費者の節約が続いているのではないかと。原料の発注は押さえぎみである。発注量に大きな変化はなく10月も増える要素がない。11月も発注が伸びないのではないかとと思われる。

編集後記

広報部副部長 脇 克美

過日、上野へ出かけたついでに浅草まで足をのばし「東京スカイツリー」の建設現場を見てきました。その何日か前にTVニュースで現在165mの高さまで達したとの場面を見て何故か急にいちど見てみたくなったのです。実際には浅草から東武線でひと駅目の業平橋駅まで行くのですが、ホームに隣接して目の前すぐが現場になっており工事途中とはいえもう見上げるほどの高さがありこちらに迫ってくる迫力感がありました。2011年12月の完成予定で約634mの高さは世界一となるということです。眺めているうちに東京タワーと比べていました。高さは比べようもありませんが、東京タワーも台座のあたりから見上げると圧倒的な存在感があります。

私は昭和29年生まれで東京タワー（昭和33年完成）の建設風景は知る由もありませんが、『3丁目の夕日』の様にランニングシャツに短パン姿で野原を駆け巡っていたあの頃が懐かしく、また甘酸っぱい思い出としてよみがえってきます。

東京タワーには何回か上っていますが（小学生の時階段で展望台まで登ったこともあります）遠くの景色や下を走るちっちゃな車を見ているのは楽しいのですが、床が透明になっている所を歩くことができません。そんなことを思い出しながらしばらく「スカイツリー」に見入っていました。今度はクレーンが動いている平日に現場を見に行きたいと思っています。

インフルエンザが流行しています。新型、季節性といろいろあるようですが、これからがいよいよ本番です。うがいと手洗いの励行が予防の基本とか。身体に気をつけて年末をお過ごし下さい。



.....

組合では、広く業界関係各社から広報誌の広告掲載を募集しております。

広告スペース、場所、料金等の詳細につきまして組合事務局までお問い合わせください。

東京都製紙原料協同組合

電話 03—3831—7980

FAX 03—3831—7880